

愛知労働局長がベストプラクティス企業を訪問しました

愛知労働局では、令和7年11月6日、小林洋子局長が株式会社キヨクトー（日進市）を訪問しました。

株式会社キヨクトーは、チップドレッサー（溶接機の電極部分を研磨し、溶接性を回復させる機械）で世界トップシェア（同社調べ）の企業です。

冒頭、草野寛和代表取締役社長から「ニッチなマーケットで世界一を目指している。」「優秀な人に来てもらうためには働く環境を整える必要がある。残業時間を減らし、効率化を進めるためには惜しまず投資する必要がある。」とのお話がありました。

そして、工場やオフィスを案内していただきつつ、具体的な働き方改革の取組を伺いました。

その1つが、工場内倉庫の「デジタルピッキングシステム」です。

同システムは、必要な部品の識別情報を端末に読み込まれると、棚の表示器が点灯して部品の保管場所が示されるとともに、取り出した部品の数量も記録することができるというものです。

同システムの採用により、ピッキング作業（倉庫から必要な部品を集める作業）に要する時間や、棚卸しの時間を大幅に短縮することができたとのことでした。

加えて、高性能検査機器の増設や、事務システムの更新等、従業員の提案を積極的に受け入れることにより、時間外労働時間を大幅に削減し、年次有給休暇の取得率も向上させることができたとのことでした。

また、妊娠初期休暇制度等、女性の働きやすい環境を整備して「えるぼし」認定を受けるとともに、社長のおごり自販機や宅配BOX等の福利厚生を充実させました。

これらの取組を通じて、社内のコミュニケーションを図り、風通しの良い働きやすい職場環境づくりに努めているとのことでした。

最後に、小林局長は、「人手不足でないときから人を定着させることに心を砕いていたこと、そして、業務効率化を進めることで残業時間を減らして考える時間を生み出し、次の生産のための循環を作り出しているところが素晴らしいと感じた。」と所感を述べました。

